

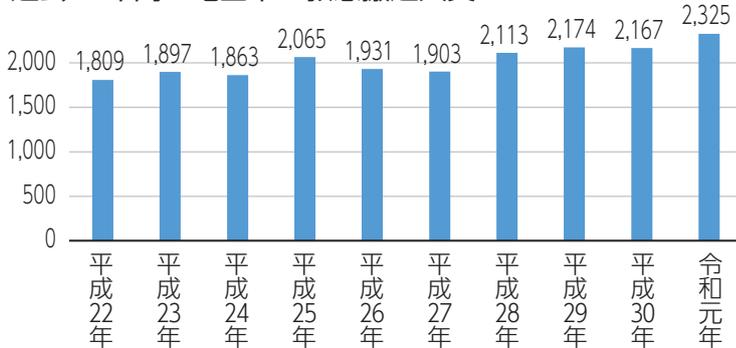


けがや事故を未然に防ぐ「予防救急」

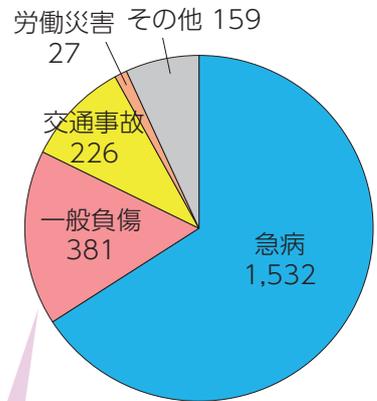
近年、市内の救急搬送人数は増加傾向にあり、令和元年は2,325人で過去最高となりました。今後、高齢化が進むにつれて、さらに救急車の出動頻度が高くなると予想されます。

救急搬送された人の中には、少し気を付けるだけで病状の悪化やけがを防ぐことができたケースもあります。日ごろから健康管理に心掛け、体の不調があれば早めに医療機関を受診しましょう。また、普段の暮らしの中で少しの注意や工夫で防げる事故やけがの防止に取り組みましょう。

過去10年間の亀山市の救急搬送人員



令和元年 救急事故種別一覧



うち248件(65%)は「転倒・転落」(転倒・転落のうち140件(56%)が住宅内で発生。年齢別では、13件(5%)が5歳以下、199件(80%)が65歳以上。)

急病:脳卒中、心筋梗塞、熱中症、喘息発作など
一般負傷:転倒、転落などによるけが
その他:火災、水難、運動競技中、転院搬送など



家庭内にひそむ事故やけがを防ごう!

特に高齢者や
小さなお子さんは注意!

けがや事故の発生場所や原因	こんな対策ができます
発生件数1位 転倒 主な発生場所 家の中の段差、玄関、廊下など 事例 段差につまずき転倒、股関節骨折	・室内の段差をなくす ・夜間も歩きやすいように足元灯を付ける ・部屋を整理整頓する
発生件数2位 転落 主な発生場所 階段、ベッド、脚立、いすなど 事例 階段から足を滑らせ転落して、頭や腕を負傷	・階段に手すりや滑り止めを付ける ・不安定な場所で行う脚立作業は控える ・ベッドに転落防止用の柵を付ける
発生件数3位 窒息 主な原因となるもの もち、肉、薬の包装など 事例 食べ物(もち、ゼリーなど)がのどに詰まった	・食材は、細かく切って調理する ・お茶や水など水分を摂りながら食事する ・小さな子どもは、ピーナッツなど豆類が気管支に入りやすいので控える
そのほかの事故	
入浴中の事故 事例 入浴中に意識を失い溺れた	・飲酒後の入浴は避ける ・事前に浴室を温めておく
熱中症 事例 夏場に閉め切った部屋の中でぐったりしている	・適度に扇風機やエアコンを使用する ・のどの渇きを感じる前にこまめに水分補給する ・日中の暑い時間は屋外作業を控える

問合せ 消防署 警防課 救急グループ(☎82-9499)